

<金標準、ジャクソンホールでのタカ派発言の波紋・・・>



(出所：オアシス)

総合 PCE（個人消費支出）は前年同月比 3.7%となり、FRB がインフレ目標とする 2%からかなり高く、インフレ抑制の利上げ確率を高める数値を見せている。特に週末に開催された FRB 年次フォーラムである通称「ジャクソンホール」で、FRB 議長に就任して初の講演で、FRB 議長の就任時は事前のガイダンスも、FOMC 前のシグナルも、市場の期待を事前に管理するための「Fed トーク」も行わないと述べていたが、「われわれの判断基準をここに提示する。基調的な物価上昇率が、十分な速度を伴って明確に目標へ向かっていると確信できなければならない。そうでなければ、われわれにはまだやるべき仕事が残っている」と語り、多くの関係者はこれを「FRB 本来のコミュニケーションへの回帰」と受け止めたことから、9 月 16 日開催の FOMC での利上げ確率が講演前の 36%から 62.7%まで上昇している。そのため「金利を生まない金」にとってマイナス要因であり、金標準先物も 24500 円から 23576 円まで下落するなど週末の雇用統計まで下値模索の値動きに注意と思える。

<テクニカル>

金標準先物の日足の MACD では、MACD が下げながら、シグナルも切り上げている。RCI は短期が下落し、長期は 75%を切り上げている。特に指数平滑移動平均線のレンジ内に日足が入り、23159 円へ向けた下値模索に注意が必要に思われる。

このレポートはお客様への情報提供を目的としています。情報に関しては正確を期するよう最善を尽くしておりますが、内容の正確性、信憑性に関し保証をするものではありません。利用にあたっては自己責任の下で行ってください。売買の判断はお客様御自身で行ってください。

○商品デリバティブ取引は最初に委託者証拠金等の預託が必要で、その額は商品によって異なりますが、最高額は1枚当たり通常取引 5,175,000 円(2026 年 8 月 31 日現在)です。また、委託者証拠金は相場変動や日数の経過により追加預託が必要になることがあり、その額は商品や相場の変動によって異なります。○商品デリバティブ取引は相場の変動によって損失が生ずることがあります。また、実際の取引金額は委託者証拠金の約 5 倍から 50 倍と著しく大きいため、損失額が預託している委託者証拠金の額を上回ることがあります。○商品デリバティブ取引は委託手数料がかかり、その額は商品によって異なりますが、最高額は 1 枚あたり往復 100,760 円(2026 年 8 月 31 日現在)です。手数料額は相場変動により増減する場合があります。

当社(商品先物取引業者)の企業情報は当社本・支店及び日本商品先物取引協会で開示しています。お取引についての御相談は、当社顧客サービス担当(東京)電話 03-5540-8423 (受付時間:平日 8:30~17:30)
証券・金融商品あっせん相談センター <https://www.finmac.or.jp> 日本商品先物取引協会相談センター
<https://www.nisshokyo.or.jp>